

令和 3 年度

大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・
大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業

成果報告書



令和 4 年 3 月
鹿屋体育大学

大学スポーツ資源を活用したコンソーシアムの形成等

- ・ 本学が取り組んでいるスポーツを通じた地域との連携事業（Blue Winds 事業）は、本学が所在する鹿屋市との連携が中心となっている。
- ・ 鹿屋市との連携実績を基に大隅全域、さらには、鹿児島県全域へと連携を拡大していくことが、今後の課題であった。
- ・ 本事業では、従来とは異なるアプローチ（地域課題である少子高齢化への対策や新型コロナウイルス感染症への対応等）で地域の関係団体と連携し、スポーツによる地域活性化の拠点として「地域スポーツコンソーシアム Blue Winds」（仮称）の形成を目指すことを目的としている。（図1）
- ・ 令和3年度は、運動スポーツによる地域の活性化、健康増進・介護予防に関する事業として、2つのモデル事業（みんなのタイムトライアル、健康増進・介護予防教室）と Blue Winds 事業のオンライン化に取り組んだ。

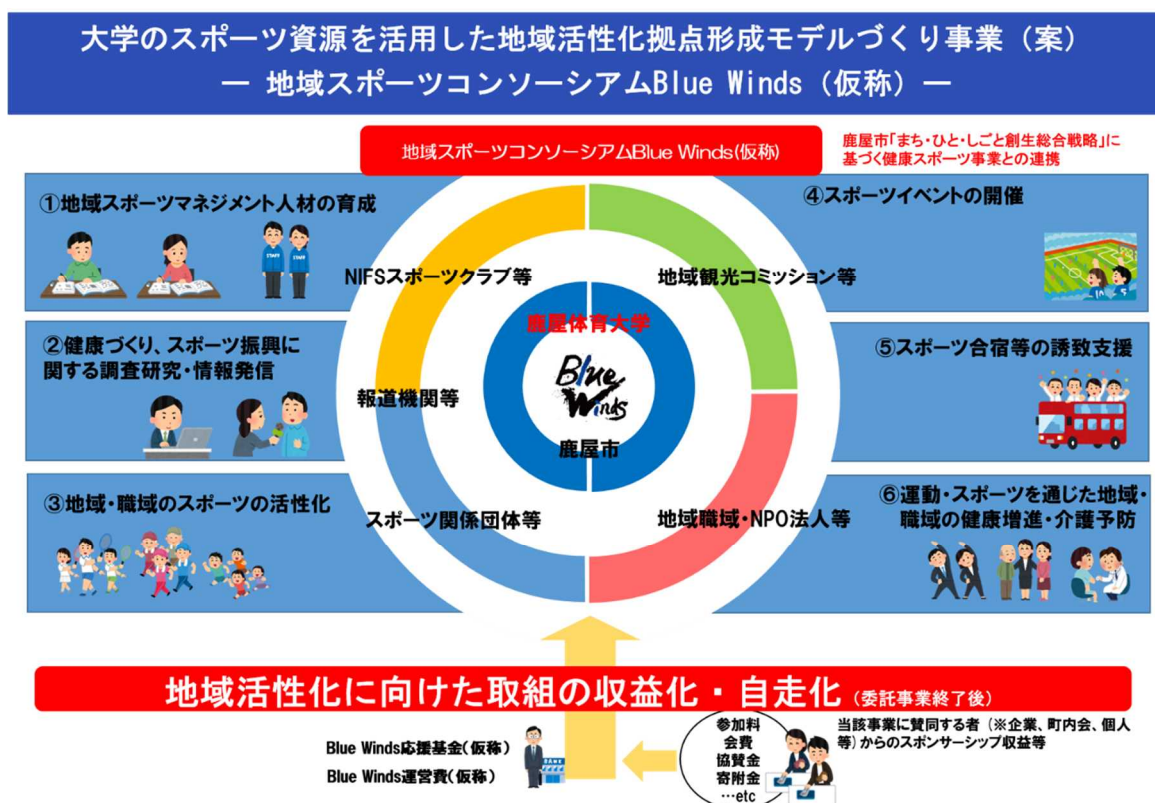


図1 目指すコンソーシアムのイメージ及び取り組み事業

- ・ 本事業の実施により、Blue Winds と連携する地域の関係団体が拡大し、コンソーシアム形成に向けた基礎作りができた。(図2)

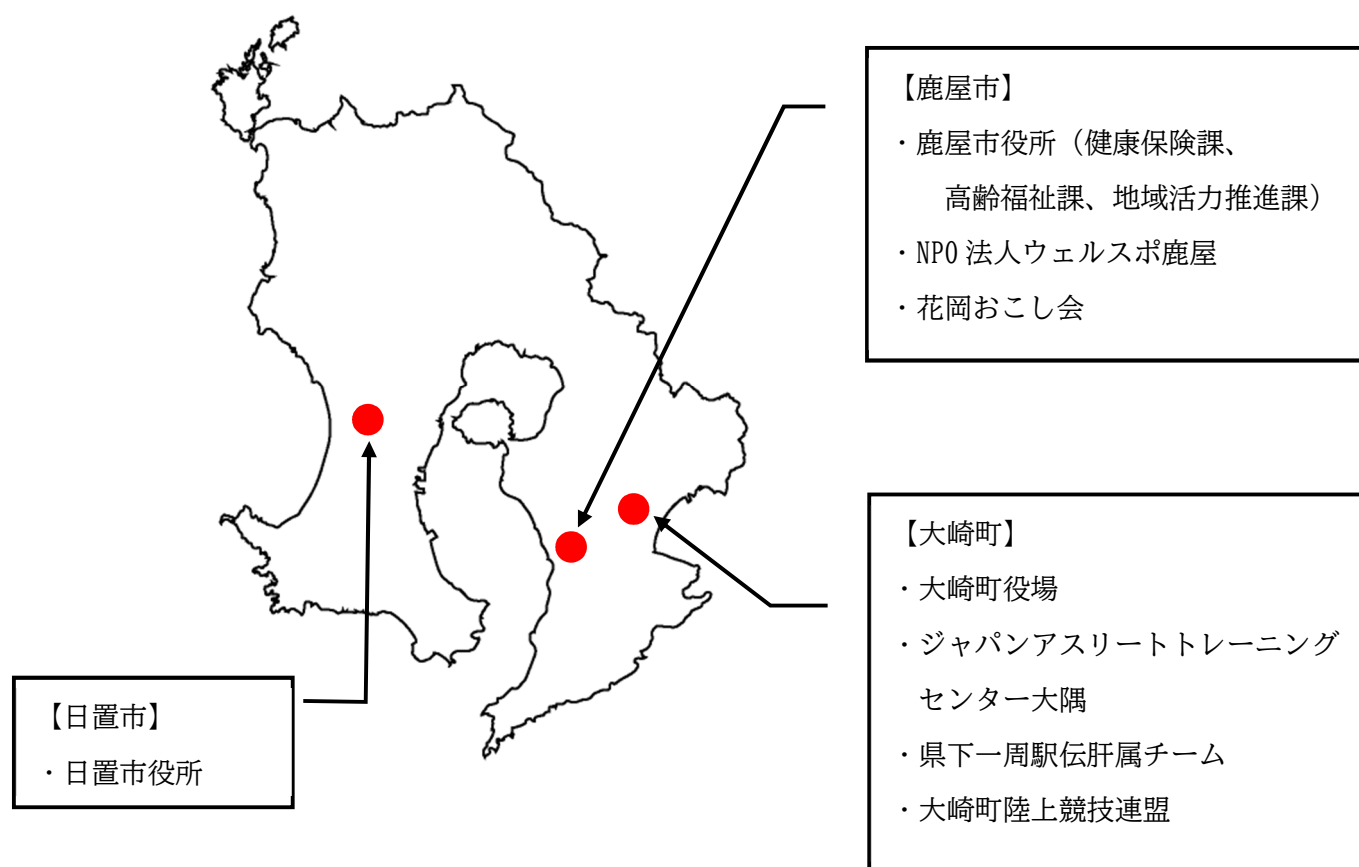


図2 本事業を契機に Blue Winds と連携した地域の関係団体について

地域活性化に向けた具体的な取り組みの推進

1) みんなのタイムトライアル in 大崎

①概要

- ・全天候トラックでのタイムトライアルの機会を提供するとともに、鹿屋体育大学の資源を活かしたスポーツイベントを通して、地域でのスポーツプロモーションを図ることを目的としたランニングイベントである。
- ・このイベントは本学で実証研究してきた健康づくり・ランニングイベント「みんなのタイムトライアル」を Blue Winds 事業として、鹿屋市と連携して本格的に事業化するとともに、本事業においては、鹿児島県曾於郡大崎町に設立された「ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅」と連携して、新たに開催した。

②日時及び場所

- ・令和3年11月27日（土）11時30分～16時
- ・ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅（鹿児島県曾於郡大崎町菱田1441）

③参加者

- ・47名
（内訳）100m：3グループ10名、1000m：20名、3000m：14名、5000m：3名
※新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、鹿児島県内在住の方を対象とし、イベント1週間前から所定の体調管理チェック表を記入・提出を義務付け

④内容

- ・準備運動として、本学が開発した「Exseed」を行った。
※参考：鹿屋体育大学ビデオライブラリ
<https://www.nifs-k.ac.jp/outline/summary/pr/video.html>
- ・実施種目のうち、100mについては室内競技場、1000m・3000m・5000mについては屋外の陸上競技場で実施し、当日の様子はYouTubeによるライブ配信を行った。（図3）



写真1 準備運動 Exseedの様子



写真2 陸上競技場での様子



図3 ライブ配信の様子

⑤事業の効果及び評価について

【近隣自治体のスポーツ振興に関わる団体との連携拡大】

- ・会場として、陸上競技のトレーニングに特化した日本初のスポーツ合宿拠点施設である「ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅」を利用した。
- また、大崎町陸上競技協会と県下一周駅伝肝属チームとの連携の下、運営した。

【イベント運営に携わる学生数・地域住民ボランティア数の増加】

- ・本学陸上競技部の学生を中心に 15 名の学生が運営に携わった。
- ・また、運営スタッフとして大崎町陸上競技協会から 5 名、ペースメーカーとして、県下一周駅伝肝属チームの選手 11 名が携わった。

【参加者について】

- ・大崎町で初めて開催し、鹿屋市をはじめとした大隅全域から参加
(鹿屋市、曾於市、志布志市、大崎町、南大隅町、肝付町)
- ・イベント実施後に行ったアンケートに参加者の約半数が回答し、イベント全体の満足度は高く、全員が「また参加したい」と回答した。

「また参加したい」と思った理由を自由回答で尋ねたところ、「楽しい」「ペーサー」「できる」といった単語が多く語られており、ペースメーカーの存在が参加者に目標達成をもたらし、そのことがイベントの楽しさとして感じられている様子が窺える。

(図4)

2) 健康増進・介護予防教室

①概要

- ・地域課題として重要な「健康増進・介護・認知予防」に資する事業を鹿屋市等の関係機関と協働で実施することで、大学を核にスポーツや健康運動を通じた地域課題解決策を模索し、地域における健康づくり活動持続可能なモデル化を図ることを目的とし実施した。

②日時及び場所

・健康づくりセミナー

：令和3年8月25日（水）～令和4年2月22日（火） 計7回

本学スポーツパフォーマンス研究センター及び花岡地区公民館で実施

・介護予防教室

：令和3年9月30日（木）～令和4年2月9日（水） 計21回

本学スポーツパフォーマンス研究センター及び花岡地区公民館で実施

③参加者

- ・健康づくりセミナー：計56名

（内訳）

日付	参加者数
8月25日（水）9：00～12：00	8名
9月27日（月）9：00～12：00	10名
10月27日（水）9：00～12：00	11名
11月17日（水）9：00～12：00	7名
12月15日（水）9：00～12：00	2名
1月27日（木）9：00～12：00	13名
2月22日（火）9：00～12：00	5名

- ・介護予防教室：計 186 名

(内訳)

日付	参加者数	日付	参加者
第 1 クール		第 2 クール	
9 月 30 日 (木) 13:00~16:00	14 名	10 月 5 日 (火) 13:00~16:00	11 名
10 月 7 日 (木) 13:00~16:00	12 名	10 月 12 日 (火) 13:00~16:00	11 名
10 月 14 日 (木) 13:00~16:00	12 名	10 月 19 日 (火) 13:00~16:00	10 名
10 月 21 日 (木) 13:00~16:00	9 名	10 月 26 日 (火) 13:00~16:00	9 名
10 月 28 日 (木) 13:00~16:00	12 名	11 月 2 日 (火) 13:00~16:00	11 名
11 月 4 日 (木) 13:00~16:00	10 名	11 月 9 日 (火) 13:00~16:00	11 名
11 月 11 日 (木) 13:00~16:00	10 名	11 月 16 日 (火) 13:00~16:00	11 名
11 月 25 日 (木) 13:00~16:00	6 名	11 月 30 日 (火) 13:00~16:00	7 名
第 3 クール			
1 月 12 日 (水) 13:00~16:00	4 名		
1 月 19 日 (水) 13:00~16:00	5 名		
1 月 26 日 (水) 13:00~16:00	2 名		
2 月 2 日 (水) 13:00~16:00	4 名		
2 月 9 日 (水) 13:00~16:00	5 名		

④内容

- ・本学所在地域の町内会連合団体である“花岡おこし会”を対象に、延べ 242 名が参加。
- ・健康づくりセミナーでは、生活習慣病やメタボリックシンドロームの予防や改善に健康づくりの専門家がアドバイス支援（運動、栄養指導）を行った。
- ・介護予防教室では、介護や認知症の予防に運動を用いた健康づくりの専門家がアドバイス支援（運動、栄養指導）を行った。



写真3 健康づくりセミナーの実施風景



写真4 介護予防教室の実施風景
(左：スクエアステップ・エクササイズ、右：ノルディックウォーキング)

⑤事業の効果及び評価について

【鹿屋市の健康・介護福祉部局との連携拡大】

- ・これまで Blue Winds 事業では鹿屋市役所市民スポーツ課を中心とした連携でイベントを実施してきたが、今回の健康増進・介護予防教室では、鹿屋市高齢福祉課との連携で教室を実施した。
- ・次年度以降も高齢福祉課との連携し、教室を進める予定である。

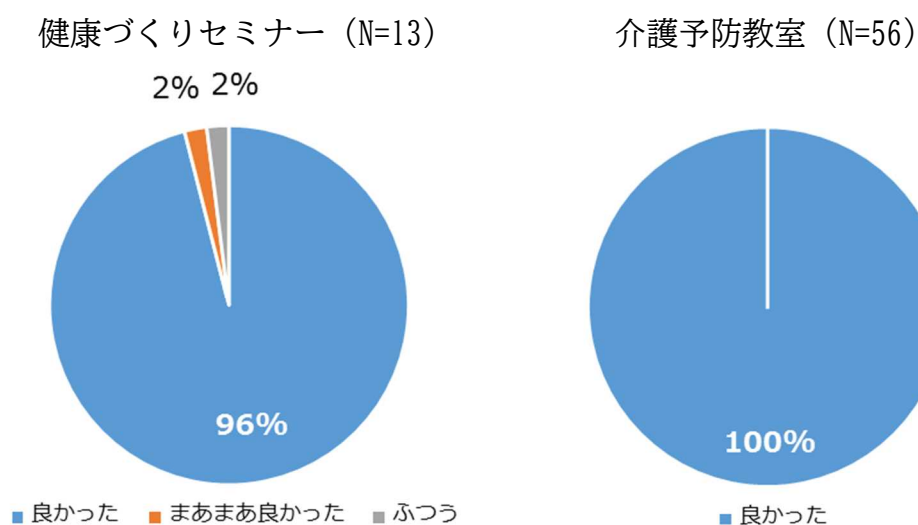
【健康運動指導に興味を持つ学生の増加】

- ・健康増進・介護予防教室に延べ 58 名の学生が指導補助として参加した。

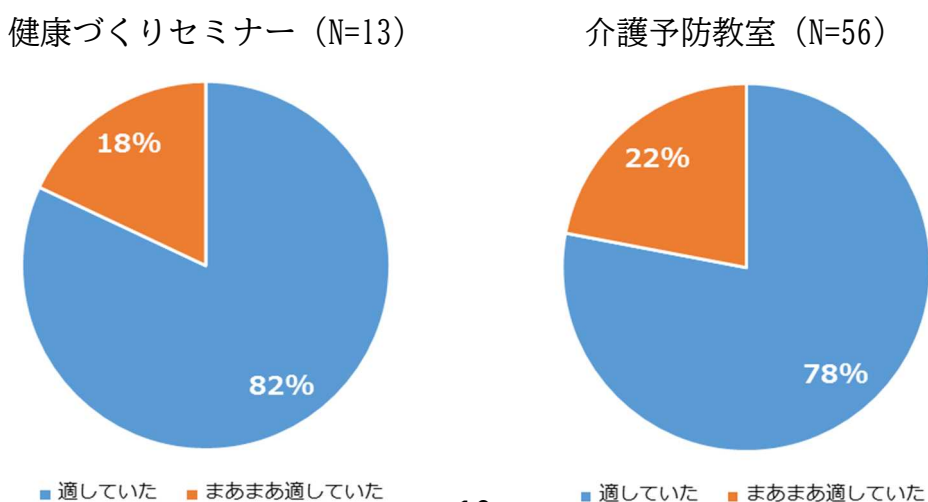
【参加者の身体機能、認知機能等の改善】

- ・1 年間の活動では、改善の効果検証ができないため、令和 4 年度に本学生涯スポーツ実践センターの事業として、参加者のフォローアップ測定（体力測定と認知機能測定）を実施する予定である。
- ・なお、教室終了時に参加者への教室に対する満足度等のアンケート調査を実施した。健康づくりセミナーから 13 名、介護予防教室から 56 名の回答を得た。

本教室に参加して良かったですか？



本教室の内容は自分に適していましたか？



3) Blue Winds 事業のオンライン化

<スポーツをカタルガ>

①概要

- ・学生を対象とした「スポーツをカタルガ」と題したアナウンスセミナーを行い、カレッジスポーツデイ等のイベントでのオンライン化の実施体制の確立を図った。

②日時及び場所

- ・8月11日（水）～9月26日（日）計6日間、オンライン及び本学野球場

③参加者

- ・本学学生3名（硬式野球部2名、サッカー部1名）
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、受講生の縮小が余儀無くされたことから、本学学生に限定して実施することとなった。

④内容

- ・スポーツの価値を伝えることができる人材の育成を目的として、スポーツ取材や実況中継等の多方面で活躍するキーマンを招き、スポーツイベントや試合をより面白くする「仕掛けづくり」を学ぶ実践プロジェクト型セミナーを行った。

コンテンツ	日程	備考
①スポーツを「語る」とは	8月11日（水）	オンライン
②「語る」ための「視点」とは	8月11日（水）	オンライン
③野球の試合での「取材」と「分析」の視点	8月15日（日）	オンライン
④会場MCのための「資料作り」	8月18日（水）	オンライン
⑤「MC練習」と品評会	9月1日（水）	オンライン
⑥資料整理と直前試合分析	9月22日（水）	オンライン
⑦野球を「カタルガ」（実践）	9月26日（日）	本学野球場で実践

7つのコンテンツを6日に分けて実施

- ・ Zoom を用いたオンラインセミナーの後、9 月 26 日（日）に本学野球場で開催された「九州地区大学野球選手権南部九州ブロック大会鹿児島地区予選」の試合を実践の場として、実施した。



写真5 スポーツをカタルガの実施風景

（左：実践の場である公式戦での実況シーン、右：修了証を手にする受講者）

⑤事業の効果及び評価について

【オンライン化のシステム構築と実施方法の確立】

- ・ 受講者は自宅等から別々に Zoom に入室し、セミナーに参加
- ・ 硬式野球部が従前行っていた試合のライブ配信映像に実況解説の音声を加えるノウハウを確立

【本事業の認知度の向上】

- ・ 本事業の様子は、スポーツアライアンス室の YouTube アカウントによって配信され、学内関係者を中心に視聴された。
- ・ なお、本事業の効果を実証するために、研究を進めている。具体的には、100 名前後の被験者を対象として、先述のライブ配信されたアーカイブ動画を視聴したことによる、チームおよび大学の心理的な結びつきはどのように変化するのか、について明らかにすることを目的に、現在実験を実施しているところである。



写真6 YouTube での配信の様子

【メディアへの露出回数の評価】

・テレビ

令和3年9月26日：MBC スポーツニュース（南日本放送）

・新聞

令和3年10月13日：南日本新聞

令和4年1月発刊：蒼天（鹿屋体育大学財団新聞）

<健康増進・介護予防のための教材作成>

①概要

- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大による体力低下の改善を目的とする。

②内容

- ・「健康増進・介護予防教室」を基に動画及び教材を作成
- ・教材の利用対象者は主に高齢者となるため、スマートフォン向けアプリ等ではなく、運動した日をチェックできるアナログな日めくりカレンダーを作成
- ・本教材を「健康増進・介護予防教室」の参加者に配布



図5 作成した動画

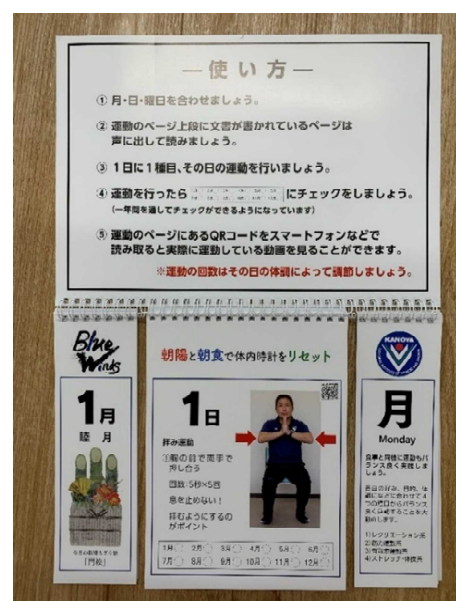


写真7 作成した日めくりカレンダー